

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----------------------|---|-------------------|---|-----|--------|---|------|------|---------|---|-----|-----|-----------------------|---|-----|-----|-----------------------|---|----|----|---------------------|---|----|----|
| 日本電子専門学校 | 昭和51年9月10日 | 古賀 稔邦 | 〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人電子学園 | 昭和38年12月17日 | 多 忠貴 | 〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工業 | 工業専門課程 | 高度情報処理科 | | 平成19年文部科学大臣告示第20号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 高度情報処理科では、プログラマーだけではなく上級システムエンジニアの育成を目的とする。そのために、情報システム開発における実践的な技術や知識を身につけ、企業や組織において情報社会の基盤を支えられる人材育成を目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 昼間 | 2460時間 | 1230時間 | 0時間 | 1290時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 160人 | 127人 | 32人 | 4人 | 8人 | 12人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日 | | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月1日～9月10日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■春季: 3月21日～4月6日 ■学年末: 3月31日 | | 卒業・進級条件 | | ■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、自宅訪問、保護者連携 電話・メール連絡 | | 課外活動 | | ■課外活動の種類 ・体育祭実行委員会 ・学園祭実行委員会 ・新宿警察主催ボランティア活動 ・各種競技大会 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) キヤノン、ぐるなび、富士ソフト、NHNテコラス、パーソルプロセス&テクノロジー等、情報処理のシステム開発に関わる業界 ■就職指導内容 希望調査、履歴書作成指導、面接指導 ■卒業生数: 29人 ■就職希望者数: 29人 ■就職者数: 29人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>オラクルマスターデータベース Bronze</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>オラクルマスターデータベース Silver</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>オラクルマスターデータベース Gold</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 基本情報技術者 | ③ | 28人 | 12人 | オラクルマスターデータベース Bronze | ③ | 12人 | 11人 | オラクルマスターデータベース Silver | ③ | 5人 | 5人 | オラクルマスターデータベース Gold | ③ | 2人 | 2人 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本情報技術者 | ③ | 28人 | 12人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オラクルマスターデータベース Bronze | ③ | 12人 | 11人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オラクルマスターデータベース Silver | ③ | 5人 | 5人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オラクルマスターデータベース Gold | ③ | 2人 | 2人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 5名 平成29年4月1日時点において、在学者117名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者112名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学習上の理由、健康上の理由、経済上の理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人面談、保護者連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問 | | 5名 | | ■中退率 4.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・電子学園特別奨学生制度(本校専願者で、学業・人物共に優秀であり、就学に際して経済的事情を有する方を対象) ・成績特待生制度(本校専願者で、高等学校進学用調査書の評定平均が本校の基準を満たす方を対象) ・試験特待生制度(本校専願者の方が対象) ・資格特待生制度(本校専願者で、本校指定の資格を取得している方が対象) ・美術特待生制度(本校専願者で、本校指定の作品を提出できる方が対象) ・課外活動特待生(本校専願者で、高等学校から課外活動に対する推薦を受けられる方が対象) ・親族入学優遇制度(入学者の親族が、電子学園の在校生または卒業生である方が対象) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 平成30年3月31日 http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation.html | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://www.jec.ac.jp/course/it/jz/ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決済で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|-------------------------|---------------------|----|
| 成井 弦 | 特定非営利活動法人エルピーアイジャパン | 2017/10/1～2020/3/31 | ① |
| 山本 直樹 | 株式会社ヴァル研究所 | 2017/10/1～2020/3/31 | ③ |
| 古賀 稔邦 | 日本電子専門学校 校長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 船山 世界 | 日本電子専門学校 副校長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 杉浦 敦司 | 日本電子専門学校 教育部 部長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 佐々木 卓美 | 日本電子専門学校 教務部 部長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 高橋 陽介 | 日本電子専門学校 キャリアセンター センター長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |
| 糠盛 創 | 日本電子専門学校 高度情報処理科 学科長 | 2017/10/1～2020/3/31 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 平成29年9月14日 14:00～16:00 開催

第2回 平成30年3月1日 14:00～16:00 開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

【議題1】

IoTと情報システムの融合について。

【意見】

IoTの実装は、機能を限定してでも高い完成度を目指す。I/Oを意識して開発すると良い。テスト技法とテストの重要性に対する意識付けがほしい。

【活用】

IoTに関する意見を踏まえ、Javaの授業にEV3を教材として採用予定、3学年すべての学生でのIoT総合技術展の見学、卒業制作でのIoTに関連するシステム開発として活用した。品質管理を重視する意見を踏まえ、3年次から2年次に前倒しする計画に活用した。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

システム開発を統括できる上級システムエンジニアを育成するために、情報処理システム企業と連携して、教育課程の編成、新規科目の検討、既存科目の内容と教育手法の改善、教材の開発、システム開発プロセスの検討など、実践的かつ専門的な職業教育を実施するための協議・検討をすることを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

IT業界で活躍できる上級システムエンジニアを育成するため、情報システム開発企業等から具体的な改善指導を受け、要求の分析・設計・開発といった一連のシステム開発工程やそれに伴う業務知識、さらに最新の技術についても、実践的に学ぶことを基本方針とする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|---------|---|------------|
| 進級制作 | 事前に用意された情報システム開発のプロジェクトに基いてシステム開発を実践する。実務上のユーザーインターフェイスや利便性の観点からレビューを受け、使いやすい情報システムとしての妥当性を検討する。 | 株式会社 TSOne |
| 卒業制作Ⅰ | 情報システム開発のプロジェクトを想定し、システム開発を実践する。システム企画に対して、実務上の観点からのコメントと総評をもとにシステム設計書を作成し、レビュー(方向性・妥当性)を行う。 | 株式会社 TSOne |
| 卒業制作Ⅱ | 情報システム開発のプロジェクトを想定し、システム開発を実践する。卒業制作Ⅰの設計に基づいてシステムを開発し、完成させたうえで発表をする。産学連携の科目として、連携企業からの指導と評価を受ける。 | 株式会社 TSOne |
| Webシステム | HTTPを使ったWebシステムの仕組みを理解し、Webシステムを開発するためのプログラミング技術を学習する。産学連携の科目として、近年の情報システム開発における実務上有効な技術について連携企業からの指導と評価を受ける。 | 有限会社パーティクル |

(別途、以下の資料を提出)

- * 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教育課程編成委員会と情報システム開発業界の動向を踏まえて、上級システムエンジニア育成のために、一連のシステム開発技術や業務知識、最新の技術について、教員に不足している知識、技術、教授法や教員資質に関連した企業が実施する研修や、必要に応じて連携企業を招いた校内での研修等、以下の研修等に教員研修規定に則って参加することを基本方針とする。

- ・システム開発におけるプロジェクトの管理・計画手法に関する研修等。
- ・一般の企業等における近年のワークフローや業務処理に関する研修等。
- ・IoTやAI、ブロックチェーン等の最近の技術動向に関する研修等。
- ・ビッグデータやクラウド等のデータベースやネットワークに関する技術動向に関する研修等。
- ・教授法や教員の資質に関する研修等。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「「DB Online Day 2018」 powered by 日本オラクル」(連携企業等:日本オラクル株式会社)

期間:2018年2月22日 対象:学科教員

内容:Autonomousから18c・クラウド移行からライセンスまで、Oracleの最新情報をキャッチアップする。

| |
|--|
| <p>研修名「GUIで機械学習を始めよう！」(連携企業等:日本オラクル株式会社) 期間:2017年9月27日 対象:学科教員 内容:機械学習アルゴリズムによって過去データを学習し、様々な予測モデルを自動的に作り上げ、予測結果の取得までを体験する。</p> |
| <p>研修名「TOPPERS活用セミナー」(連携企業等:特定非営利活動法人TOPPERSプロジェクト) 期間:2017年6月17日 対象:学科教員 内容:組込みソフトウェアの開発技術を学ぶとともに、リアルタイムOSを使用したプログラムの開発方法等を学ぶ。</p> |
| <p>②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「教授法研修」(連携企業等:株式会社ビーフォーシー) 期間:2017年8月18日、21日 対象:新人教員 内容:教授法の重要性の理解に始まり、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付けた上で、独自の戦略を立てられるようになることを目標としている。</p> |
| <p>研修名「H29年度夏季研修会創造性開発講座<収束技法編>」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス) 期間:2017年8月22日～23日 対象:全教員 内容:創造思考技法の実践による革新的思考を啓発し、新しいアイデア、考え方、アプローチの仕方を実践に結びつけていくために必要な実践思考能力とプレゼンテーションスキルを向上させる。これは、教員として必要とされるグループワークでのファシリテーション力を身につけることに繋がる。</p> |
| <p>研修名「専修学校教職員資質能力向上プログラム実験講座」(連携企業等:一般財団法人専門職高等教育質保証機構会) 期間:2018年1月29日～2月18日 対象:学科教員 内容:専修学校の教職員の資質として必要な「カウンセリング能力」「教育学習指導能力」「学級経営」「質保証基礎」の4つの能力についての、本質的な知識を獲得する。</p> |
| <p>(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「AI・クラウドなど最新技術に関する研修」(連携企業等:) 期間:2018年6月 対象:学科教員 内容:ARを用いたシステムの開発手法に関する研修。</p> |
| <p>研修名「AI関連、IoT開発に関連する研修」(連携企業等:) 期間:2018年8月～9月 対象:学科教員 内容:IoTの一連の流れを実デバイスやクラウドサービスを用いて、簡単なプロトタイプシステムを構築する研修。</p> |
| <p>研修名「ユーザーインターフェース設計基礎」(連携企業等:) 期間:2018年6月～9月 対象:学科教員 内容:使いやすいUIを設計するために人間工学、認知心理学、心理学、色彩学の基礎理論をもとに原則を修得し、演習をとおして、人間中心設計の考え方を修得。</p> |
| <p>研修名「IoT、AI、ブロックチェーン、RPAなどの最近のIT技術に関する研修」(連携企業等:) 期間:2018年6月～9月日 対象:学科教員 内容:IoT、AI、ブロックチェーン、RPAなどの最近のIT技術に関する研修。</p> |
| <p>②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「H30年度夏季研修会 サステイナブルセミナー」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス) 期間:2018年8月30日～31日 対象:全教員 内容:全世界のテーマである「サステイナブル」について、教育分野が果たす役割について考える。これからの教員には、「サステイナブル」の観点が求められ、その基礎知識と指導力の向上を図る。</p> |
| <p>(別途、以下の資料を提出) * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画)</p> |

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、関係団体、地域住民、情報処理システム企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書に基づき、学校の運営状況や高度情報処理科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、高度情報処理科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|--|
| (1)教育理念・目標 | 理念・目的・育成人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標 |
| (2)学校運営 | 運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化 |
| (3)教育活動 | 教育目標・育成人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制 |
| (4)学修成果 | 就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善 |
| (5)学生支援 | 就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、保護者会、卒業生支援、関連分野と業界関係 |
| (6)教育環境 | 施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練 |
| (7)学生の受入れ募集 | 学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開 |
| (8)財務 | 中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開 |
| (9)法令等の遵守 | 法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援 |
| (11)国際交流 | 留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

一部の授業運営において、実習教室の開閉に関する改善を図ることが必要との意見を受け、下記の取組みを行った。
 ・指摘事項に対する実態調査を行い、迅速に対応して管理監督体制を強化すると共に適切な指導と改善を行った。
 ・授業アンケートの質問項目を変更し、授業運営上の更なる問題点の把握に努め、新たな問題点についても改善に向けた対応を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|-----------------------|--------------------|-------|
| 石本 則子 | 株式会社スタジオフェイク | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 井沢 祐 | 株式会社スタジオフェイク | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 内田 昌宏 | 株式会社 ラック | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 乗浜 誠二 | 株式会社 ナレッジコンスタント | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 舟山 大器 | 株式会社横浜環境デザイン | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 新 和也 | オートデスク株式会社 | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 浅賀 央起 | 株式会社びえろ | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 川崎 紀弘 | 株式会社コンセント | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 佐々木 信彦 | ストーンビートセキュリティ株式会社 | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 渡辺 登 | 合同会社ワタナベ技研 | 2017/5/1～2019/4/30 | 企業 |
| 満岡 秀一 | 一般社団法人 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 宮井 あゆみ | 公益財団法人画像情報教育振興協会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 中台 浩正 | 東京商工会議所 新宿支部 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 原 洋一 | 一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 米井 翔 | 一般社団法人 組込みシステム技術協会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 業界団体 |
| 勝間田 清一 | 日本大学 生物資源科学部 | 2017/5/1～2019/4/30 | 大学 |
| 四篠 勇人 | 株式会社ウィザス | 2018/5/1～2020/4/30 | 高等学校 |
| 松下 秀房 | 目白研心中学校・高等学校 | 2018/5/1～2020/4/30 | 高等学校 |
| 沼田 宏 | 株式会社インターカルト日本語学校 | 2017/5/1～2019/4/30 | 日本語学校 |
| 小澤 博太郎 | 百人町西町会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 地域住民 |
| 谷 伸城 | 株式会社アプリケーション プロダクト | 2017/5/1～2019/4/30 | 卒業生 |
| 中山 秀昭 | 日本電子専門学校同窓会 | 2017/5/1～2019/4/30 | 卒業生 |
| 藤本 香織 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 保護者 |
| 植村 美智子 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 保護者 |
| 清水 啓子 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 保護者 |
| 日比野 晴美 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 保護者 |
| 三浦 稚子 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 在校生 |
| 伊藤 史華 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 在校生 |
| 戸嶋 瑠奈 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 在校生 |
| 假野 紗希子 | | 2017/5/1～2019/3/31 | 在校生 |
| 大久保 匠真 | | 2018/5/1～2021/3/31 | 在校生 |
| 菊地 聖治 | | 2018/5/1～2020/3/31 | 在校生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment.html>

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育成人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、高度情報処理科の教育成果として、卒業制作発表会などに広く来場を促すとともに、IT業界の各種コンテストへの参加を通じて、在校生、保護者、高等学校、卒業生、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め、連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|------------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | 本校について、教育理念、校長名、沿革 |
| (2) 各学科等の教育 | 学科紹介、カリキュラム、時間割 |
| (3) 教職員 | 組織図、教職員人数 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | 教育の仕組み、キャリア教育、産学連携 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | 学校行事、エクステンションプログラム、施設 |
| (6) 学生の生活支援 | 就職サポート、学生寮 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | 学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度 |
| (8) 学校の財務 | 貸借対照表、資金・消費収支計算書 |
| (9) 学校評価 | 自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価 |
| (10) 国際連携の状況 | |
| (11) その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

<http://www.jec.ac.jp>

授業科目等の概要

| (工業専門課程 高度情報処理科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|--------------------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|--|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | | |
| ○ | | | ITストラテジ &ITマネジ メント | 企業の経営戦略・システム戦略等のITストラテジ分野、およびプロジェクト管理等のITマネジメント分野の知識を学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。 | 1 前 | 60 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | ソフトウェア | コンピュータの機能を実現するソフトウェアについて、その体系と種類、オペレーティングシステム(OS)の役割、言語プロセッサの種類と特徴など、ソフトウェアの全般的な知識を学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。 | 1 前 | 30 | | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | ネットワーク & セキュ リティ | ネットワークの基礎として伝送手順やLAN、WAN、情報通信サービス等の全容について学習します。ネットワークとも関係の深いセキュリティについても学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。 | 1 前 | 30 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | ハードウェア | コンピュータの構成要素やコンピュータ内部における数値表現、基本装置と処理形態などについて学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。 | 1 前 | 60 | | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | Linux I | Linux OSを利用して、UNIXの構造と基礎知識を理解し、コマンドラインを中心としたUNIXの操作方法について学習します。 | 2 後 | 60 | | △ | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 業務知識 | 基幹系業務のシステムを中心とした財務・会計・人事・給与・販売・生産・物流の流れと知識を学習します。 | 2 前 | 30 | | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | システムコン サルティング | 企業の経営戦略にとってIT戦略は日増しに高まっています。企業の経営課題をITの視点から解決するためのIT戦略の立案手法や個別のシステム提案手法など、システムコンサルティングに必要なスキルを学習します。 | 3 後 | 60 | | ○ | | | ○ | | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------|---|--------|-----|---|--|---|---|--|--|--|---|
| ○ | | 業界研究 | IT業界の将来動向に対応できるように、科目実施時におけるIT分野で注目されている業界テーマや、今後注目が予測される業界テーマについてトピック的に学習します。 | 3 後 | 30 | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| ○ | | ドキュメント 技法 | IT技術やシステムについてユーザー視点からわかりやすく表現する技法を学習するとともに、卒業制作のシステムに向けたパンフレットやマニュアルなどを実践的に制作します。 | 3 後 | 60 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | プロジェクト 管理 | システム開発におけるスケジュール策定・進捗管理などの手法について学習します。 | 3 前 | 30 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | 品質管理 | システムの品質向上に必要な試験の手法や工程について学習します。 | 2 前 | 30 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| | ○ | 医療情報 I | 日本の医療を取り巻く環境（少子高齢化、患者意識の変化、医療技術や内容の高度化など）をふまえた上で、医療保険に関わる法制度、地域医療連携・遠隔医療、医療分野での情報システムの活用事例について学習します。開講は選択人数に応じます。 | 2 前 | 30 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| | ○ | 医療情報 II | 医療情報の特性と標準化、医療・保険・福祉を支える情報システムの構成と機能、運用・管理の手法、医療支援のためのデータ分析・評価の方法について学習します。開講は選択人数に応じます。 | 2 後 | 30 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | C言語 | C言語を使ってプログラミングの基礎を学習します。C言語の特徴・基本命令の使い方から、配列・ポインタ・構造体を用いた実践的なプログラミング技術まで、テーマ別に設定された実習課題をもとに学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識と考え方を学習します。 | 1 後 | 120 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | アルゴリズム | プログラム作成に必要な「問題解決のための処理の手順」を演習形式で流れ図を使って学習します。処理の基本となる整列や探索、データ構造について学習し、実習を通じて理解を深めます。基本情報技術者試験対策として必要な知識と考え方を学習します。 | 1 前 | 150 | ○ | | △ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | Java I | Javaの技術的な構成を理解し、基本的な文法からクラスを使ったオブジェクト指向プログラミングまで学習します。 | 2 前 | 150 | ○ | | △ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | Java II | Java Iの知識に基づいて、ライブラリAPIを使用した実践的なプログラミングを学習します。 | 2 後 | 60 | △ | | ○ | ○ | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---------------|---|--------|-----|---|---|---|--|--|---|---|
| ○ | | ORACLE Silver | データベース環境の構築・バックアップ・リカバリなど、データベース管理者（DBA）に必要な技術を学習します。「ORACLE MASTER Silver」資格の取得を目標とした対策を行います。 | 2 前 | 60 | ○ | △ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | ORACLE Gold | ORACLE Silverの学習内容を前提に、「ORACLE MASTER GOLD」資格の範囲から、より詳細な構築・管理などを学習します。 | 2 後 | 30 | ○ | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | L i n u x II | Linux Iの授業で学習したUNIXに対する理解と操作方法を活用し、Linux OSを使って各種サーバを構築する技術を身につけます。構築したサーバを使って、UNIXサーバの管理・運用に必要な基礎的な技術を学習します。 | 3 前 | 90 | △ | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 進級制作 | システム構築に必要なとされる上流工程について、具体的な事例に基づいて設計と実装の流れを実践的に学習します。産学連携の科目として、近年の情報システム開発における実務上有効な技術について連携企業からの指導と評価を受けます。 | 2 後 | 90 | △ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 卒業制作 I | 情報システム開発のプロジェクトを想定し、システム開発を実践します。卒業制作 I では情報システムの要求分析と設計を中心に実施します。 | 3 前 | 120 | △ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 卒業制作 II | 情報システム開発のプロジェクトを想定し、システム開発を実践します。卒業制作 I で作成した要求分析と設計にもとづいてシステムを実装し、発表します。 | 3 後 | 240 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 資格対策 I | 主に情報処理技術者試験の資格取得を目指し、実際の問題に即した演習と対策を実施します。 | 1 後 | 30 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 資格対策 II | 各自が目標とする情報処理技術者試験（基本情報技術者・応用情報技術者・データベーススペシャリスト等）に応じた資格取得を目指し、実際の問題に即した演習と対策を実施します。 | 2 後 | 30 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 資格対策集中 I | 主に情報処理技術者試験の資格取得を目指し、模擬問題の実施・解説を通じて集中的な対策を実施します。 | 1 後 | 30 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 資格対策集中 II | 各自が目標とする情報処理技術者試験（基本情報技術者・応用情報技術者・データベーススペシャリスト等）に応じた資格取得を目指し、模擬問題の実施・解説を通じて集中的な対策を実施します。 | 2 後 | 30 | ○ | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|-----------|---|--------|------|---|----------|---|--|--|--|--|--|--|
| ○ | | プレゼンテーション | 就職活動での面接はもちろん、システムエンジニアやプロジェクトマネージャーとしてチームメンバーや顧客に発表できる能力を体験型の学習を通じて身につけます。 | 2 前 | 30 | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| ○ | | 就職活動リテラシー | 就職活動で必ず行われる書類審査や面接などに備え、万全の準備を行うワークショップです。ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、就職活動の準備を行います。 | 2 後 | 30 | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 合計 | | | | | 39科目 | | 2520単位時間 | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|-----------|-------|--|
| 卒業要件 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上 | 1 学年の学期区分 | 2期 | |
| | 1 学期の授業期間 | 15週 | |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。